

# 中学生の友達関係の基準に関する研究

福岡 涼平（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 柴田 俊和

キーワード：友達の基準，タブー，友達の存在

## 1. 緒言

学校生活では友達という存在が重要となっている。そして、学校生活でできた友達は将来自分を支えてくれる大きな財産となっていくものである。

しかし、この友達関係が行き過ぎてしまい、いじめに繋がってしまうという問題が起きている。この滋賀県でも中学2年生の生徒がいじめが原因で自殺してしまった事件があった。この事件も行きすぎた友達関係が原因だとされた。

そこで本研究は行きすぎた友達関係からいじめを起こさないように、友達関係を崩さないためにしてはいけないタブーはなんなのか。また、中学生の友達の基準とはなにかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

本調査では大津市立 K 中学校2年生の男子45名、女子52名、計97名を対象にアンケート調査を実地した。調査内容は、友達になったきっかけ、友達にしてほしくないこと、友達の人数などで、それぞれの回答を求めた。

## 3. 研究結果

調査の結果、友達の基準とは「気軽に話せて、一緒にいて楽しい存在」だった。また、友達にしてはいけないタブーは「約束を破らない」だった。

さらに、男女で友達の基準が異なっており、男子の「気軽に話せて一緒にいて楽しい」に対して、女子は「相談できる存在」が加わることで明らかになった。

## 4. 考察

中学生は、思春期が重なることから、身体の発達と心の発達にズレが生まれ、様々なストレ

スが溜まっていく。そのストレスを上手く発散するためにも、生徒は友達関係で「一緒にいて楽しいこと」を求めているのではないかと考える。

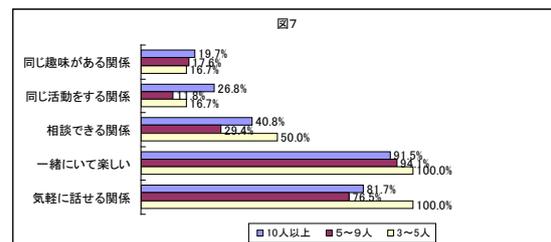


図1 友達の人数と友達の存在意味について

## 5. まとめ

友達の基準は「気軽に話せて、一緒にいて楽しい存在」であることが明らかになった。この基準を満たす環境をつくるためにも、「授業のアクティブラーニング化」が、生徒の友達づくりに影響してくるのではないだろうか。

また、友達関係を壊さないために心掛けていなければならないタブーとしては、「相手の隠し事を他にいうこと」であることが明らかになった。特に、女子は友達の基準に「相談できる関係」も追加されるため、相手の秘密を聞くことが多い。教師は、相手が周りに知られたら嫌なことは何か、約束を破られたときの相手はどんな気持ちなのかなどを知ること、考えることが必要である。そのためにも、全ての教育活動において道徳教育を充実させていくことが求められる。

## 引用・参考文献

文部科学省（2013）いじめ防止対策推進法。  
文部科学省（2015）平成26年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における「いじめ」に関する調査結果について。